

サクソフォオンの ヴィブラートの

サクソフォオンの ヴィブラート

ミューールから現代まで……その実践的な使い方方の研究

クラシカル・サクソフォオンのヴィブラートの
誕生と発展を跡づけ、イベールを始めとする
さまざまな曲での演奏例とヴィブラートの
訓練法を詳しく分析する。

佐々田 剛
サクソフォン奏者

集中連載
1

私立洛南高校を経て大阪音楽大学卒。同大卒業演奏会に出演。京都新人演奏会を始め数々の新人演奏会に出演。日本クラシック音楽コンクール入賞、長江杯国際コンクール一般の部最高位入賞。「ミ・ペメルサクソフォンアンサンブル」の一員として2006年スロヴェニアで行われた世界サクソフォン会議に参加。これまでにフランス、ロシア、中国、タイ等での海外公演に参加。また大阪フィルや関西フィル等のオーケストラに客演奏者として参加する。

1 サクソフォオンのヴィブラートの歴史……

サクソフォンは、19世紀中頃にベルギーのアドルフ・サクソによって発明された。他の管

楽器と比較すると歴史の浅い木管楽器である。松沢増保の『サクソフォンの歴史』（財団法人

近衛音楽研究所）に、アドルフ・サクソスがサクソフォンを発明するに至った過程が説明さ

れている。

「アドルフ・サクソスはバスクラリネットを改良している過程で全く新しい楽器の設計を思い立った。彼はかねてより管楽器の低音部の音色は硬すぎるか柔

らかすぎると感じていた。弦楽器は管楽器に比べその響きが弱いため戸外では使うことが出来ず、唯一金管製の管楽器だけが使いうるものであった。彼はこの不都合さを克服すべく、音色の特徴としては弦楽器に近いも